

## 12月の動向、アルミ・銅原料供給過剰の危険

橋本健一郎氏(橋本金属)は、12月の銅とアルミの原料需要と価格の見通しについてレポートをまとめたので紹介する。アルミについては、原料需給は11月の国内自動車販売不振から頭打ちがほぼ確定。輸入塊も上海シグマで11月末現在で2,330ドルと国産ADCと比べて安くはないが、年内は目新しい政策もなく、自動車販売不振不安やエコポイント終了による家電販売不振や円高などマイナス要因が多く供給過剰になる。

LME価格についてはアイルランドを始めとする欧州懸念はあるものの今に始まったことではなく影響は限られる。中国の金融引き締め不安は残るもののむしろ米国追加金融緩和策によるドル安期待や前月に続く中国の環境目標達成のためのアルミ精錬所閉鎖を背景としたテクニカル買いもあり2,350-2,500ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては11月の自動車販売の大幅悪化から頭打ちは確定、改善は見られず悪化を探る展開から11月後半価格から据え置きから-5円予測。


次に銅については、原料需要に関してメーカーは前月に続き11月前半に建値76万と直近の最高値を付けたことによる売り込みが殺到し在庫は潤沢。11月の自動車販売等の大幅悪化を受けて需給悪化は確定し飽和状態へ。年末要因も合わさって場合によっては買い止めもある。

銅価格は銅建値ベースの銅・合金スクラップ

は中国の利上げ懸念があるものの、鉱石不足、チリ鉱山ストの長期化などによる供給懸念や朝鮮半島不安による金価格上昇によるつれ高など投機資金が入りやすい状況にありLMEに関しては下値8,300ドル上値8,900ドル。銅・銅合金スクラップに関しては円高も加味して銅建値で74-78万程度と予測している。


### 耐トラッキングプラグ

トラッキング対策電源プラグ



「安心・安全を追求する」  
行田電線のこだわりが、家庭内でのプラグ火災事故を未然に防ぐ。耐トラッキングプラグを開発しました。

ここが違う



- ① 両刃先端部の治面距離をより長くしてトラッキング火災を防ぐ絶縁構造
- ② コンセントへの差し込みが不完全な状態の場合の感電防止設計

**行田電線株式会社**  
http://www.yukita.co.jp/

本社 大阪府寝屋川市吉布1丁目2番11号 電話 大阪・東京 各務 発送  
TEL 06-0533-5511 FAX 06-2904-7335 総合案内 各務 1-56 シンデレール  
東京支店 東京都新宿区西新宿7丁目16番12号  
TEL 03-2358-4800 FAX 03-2358-2826 海外 1-56 上海・廣州

アルミ  
くず

## 12月前半、関東のアルミくず2次合金買値 全品種3-7円下げ、来週値決めは据え置きか

関東のアルミ2次合金メーカー各社は、12月前半のアルミ・スクラップ購入価格(置場・現金)について、全品種キロ当たり3-7円の値下げを納入間屋筋に伝えており、これが浸透している。

下げ幅に開きはあるものの、その中身を見てみると、全品種3-5円の値下げをする2次合金メーカーと、全品種5-7円の値下げをする2次合金メーカーに分けることができる。2次合金メーカーが引き下げを打ち出している背景には、国内の自動車販売台数の激減によりアルミ2次合金需要の先行き不透明感が強くなっていること、もう1つは年末に差し掛かり、長期休暇(年始休暇)を前にしての原料需要の減少という時期的要因が挙げられる。また5-7円の下げ幅を行なっているメーカーのなかには、12月以降炉修で生産量が落ちるといふ特殊な要因が

背景としてあるようだ。

そして複数の問屋筋からは、下げ幅の違いに関係なく、どこの2次合金メーカーからも納入量が減っても構わないと言われているとの声が聞かれる。

指標のLMEアルミ相場は、12月2日入電、現地1日のセツルメントは2,290ドル。単純に為替(TTS)をかけた円換算値は195円。約1週間前の11月26日入電、現地25日のセツルメントは2,238.5ドル、円換算値は190円。足もとの方が5円割高。一方、11月の前半と後半の平均は、前半が2,412ドル、後半は2,254ドルで、ドルベースでは後半の方が約150ドル低い。為替は前半が82.63円、後半は84.65円と後半の方が円安。結果、円換算値は前半199円、後半191円と後半の方が8円割安。原料面では、指標相場は後半の